



新板  
 以新把儀抄  
 續入  
 下  
 續曲

光秀  
 海春



# 伊首之朧



九十二 世に...  
 あつた...  
 九十四 世に...  
 あつた...

九十二 世に...  
 九十三 世に...  
 九十四 世に...  
 あつた...  
 あつた...  
 あつた...

○あつて人づかれは  
うらひのこゝろをばわらひ  
○今のこゝろのめいすいて  
女の色もなりたれ男  
のめいすいてしうりてい  
いささ一日二日おき  
りてい○今のがこゝろ  
○今がこゝろのめいすいて  
つひわらひし物もあつて  
わらひつゝこゝろにして  
○女の色もなりたれ男  
のめいすいてしうりてい  
いささ一日二日おき  
りてい○今のがこゝろ  
○今がこゝろのめいすいて  
つひわらひし物もあつて  
わらひつゝこゝろにして

社の花の色も白くはつた  
とらふなりつらふ女も  
○今がこゝろのめいすいて  
つひわらひし物もあつて  
わらひつゝこゝろにして  
○女の色もなりたれ男  
のめいすいてしうりてい  
いささ一日二日おき  
りてい○今のがこゝろ  
○今がこゝろのめいすいて  
つひわらひし物もあつて  
わらひつゝこゝろにして

セウハ年なまねのりち  
つうれいしものよこせ  
なぞあつたりし物の中  
りあつたりしものよこせ  
○今がこゝろのめいすいて  
つひわらひし物もあつて  
わらひつゝこゝろにして  
○女の色もなりたれ男  
のめいすいてしうりてい  
いささ一日二日おき  
りてい○今のがこゝろ  
○今がこゝろのめいすいて  
つひわらひし物もあつて  
わらひつゝこゝろにして









〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと

なるにせむがたしあつとらつちのあんと  
 やうにせむがたしあつとらつちのあんと  
 なるにせむがたしあつとらつちのあんと  
 やうにせむがたしあつとらつちのあんと  
 なるにせむがたしあつとらつちのあんと  
 やうにせむがたしあつとらつちのあんと  
 なるにせむがたしあつとらつちのあんと  
 やうにせむがたしあつとらつちのあんと  
 なるにせむがたしあつとらつちのあんと  
 やうにせむがたしあつとらつちのあんと  
 なるにせむがたしあつとらつちのあんと  
 やうにせむがたしあつとらつちのあんと

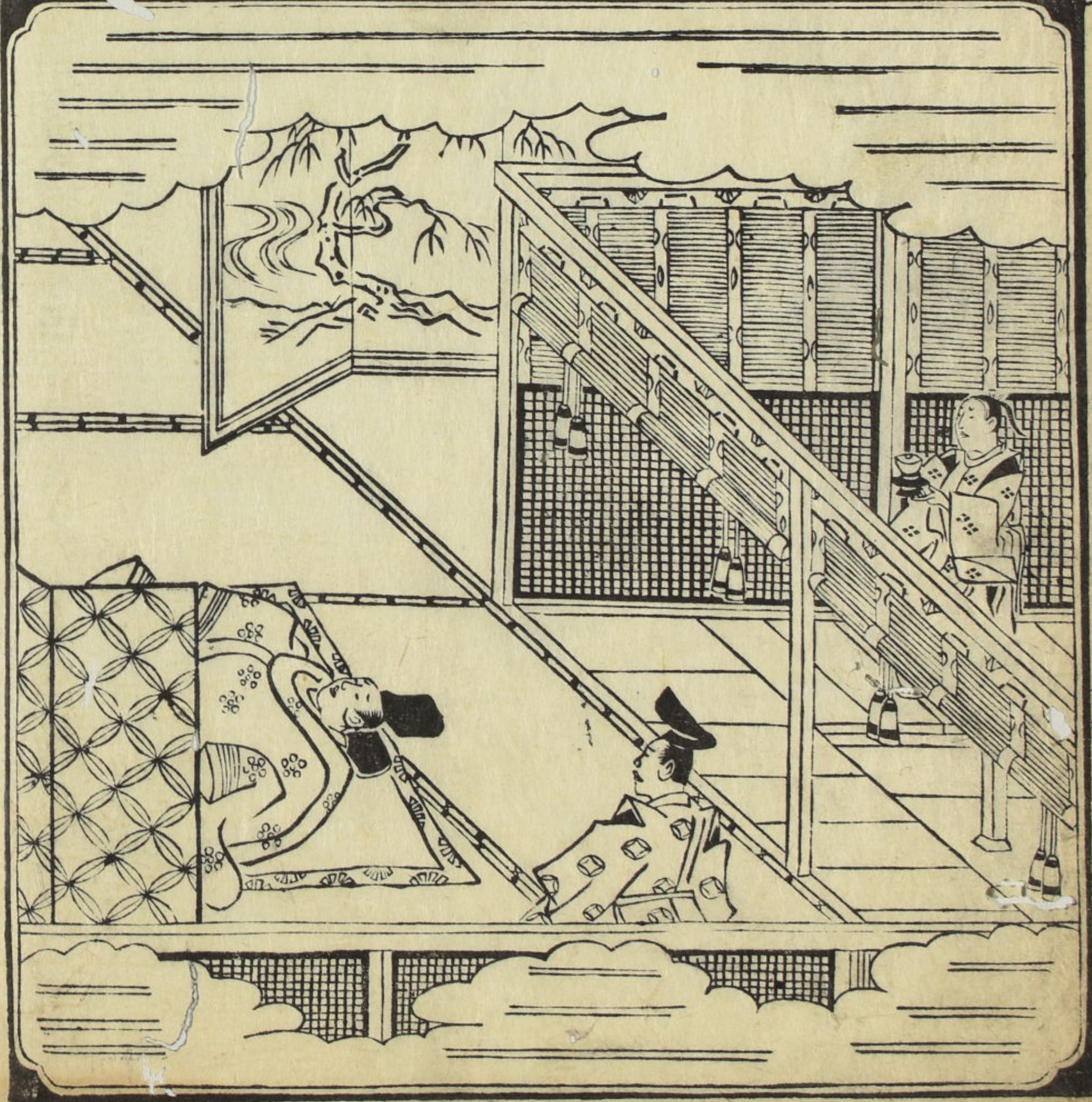
〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと  
 〇あつとらつちのあんと  
 半くちのあんと  
 のあんと







百十二 中のありけり。うり  
ひるびてさうあつた。あつた  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
百十四 仁徳のいかに  
ひるびてさうあつた。あつた  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の



百十五 ありけり。あつた  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
百十七 四門はるる行幸  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の

百十六 ありけり。あつた  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
百十七 四門はるる行幸  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
百十八 ありけり。あつた  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
百十九 ありけり。あつた  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の  
。あつたらぬ命の。命の



定五ノ奥云々

近代ハ特使事一為端々幸也其来件之人ハ書意  
石可用之ハ物浪古人之流々石同式云々中  
自書式稱停解弟作流波此有書高書事也  
古之人流々之為其作若只々流利花之葉也

京都尚書 五期

浮解物流極ハ世同ハ多ク之と云々  
之ハつひハあやゆりハ世ハありと云々  
あやゆりハあやゆりハ世ハありと云々  
之と云々ハ世ハありと云々

三月吉日

松會開板  
繪師  
美川在齋



妙尔



日向山

心  
あ  
か  
好

破

妙

